

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：32644

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25780374

研究課題名(和文) テレビ視聴と職業観・勤労観の発達：キャリア教育へのメディアリテラシーの観点の導入

研究課題名(英文) The effects of career education and television viewing on work values: Combining the quantitative content analysis of TV dramas with panel survey data

研究代表者

田島 祥 (Tajima, Sachi)

東海大学・チャレンジセンター・講師

研究者番号：60589480

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：キャリア教育やテレビ視聴が、中学生・高校生・大学生の勤労観や職業不決断、働くことに対する価値観に及ぼす影響を検討した。また、テレビドラマで描写される勤労観や働くことに対する価値観に関する内容分析を行い、それらを視聴することによる影響を検討した。分析の結果、キャリア教育によるポジティブな効果が示された。また、テレビ視聴による影響は、年齢や性別によって異なることが示された。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to investigate the effects of career education and television viewing on work values. In study 1 and 2, two panel surveys with junior high school, high school, and university students were conducted. In study 3, content analysis of 53 dramas was conducted. The results of multiple regression analyses revealed that students experienced positive effects on their work values from the proactive stance of career education. The analyses also revealed that the effects of television viewing on work values were varied by age and gender.

研究分野：社会心理学

キーワード：テレビ視聴 勤労観 働くことに対する価値観 キャリア教育 縦断調査 内容分析

1. 研究開始当初の背景

近年、より早期からのキャリア教育の重要性が指摘され、学校現場を中心に推進されている。例えば、職業に関する情報の提供や、職業を体験する機会の提供などが行われている。また、子どもにとっては、家族などの身近な人間関係を通して職業情報を得る機会も多い。特に、親の働く姿に対する認識や理解は、児童・生徒の勤労観や職業価値観に影響することが示されている (e.g., 加藤・内藤, 1991)。

しかしその一方で、職業に関する情報を獲得させる役割が相対的に大きいといわれるメディアの影響については見落とされがちであった。そこで本研究では、もっとも身近なメディアのひとつであるテレビを対象に、視聴時間の長さや視聴する内容が子どもの勤労観や働くことに対する価値観にどのような影響を及ぼすのかを検討した。

2. 研究の目的

本研究の主な目的として、次の3点を挙げることができる。

1つ目の目的は、学校や家庭で行われるキャリア教育が子どもの勤労観や職業不決断、働くことに対する価値観に及ぼす影響を検討することであった。2つ目の目的は、テレビ視聴やドラマ視聴が勤労観等に及ぼす影響を検討することであった。ここでは視聴時間に焦点を当てた。3つ目の目的は、実際に視聴していた番組の影響を検討することであった。本研究では、働く姿を描く番組としてテレビドラマを取り上げ、中学生・高校生からの視聴率の高いドラマの内容分析を行った。また、ドラマの登場人物のもつ勤労観や働くことに対する価値観が、視聴者である子どもの勤労観や働くことに対する価値観にどのような影響を及ぼすのかを検討した。

なお、本研究において、「勤労観」とは働くことに対する態度を指している。また、「職業不決断」とは、働くことや職業について考えることを延期したり回避したりする気持ちであり、「働くことに対する価値観」とは、働くことや就職先を考える際に期待する価値観を指している。

3. 研究の方法

(1) 研究1: 高校生を対象とした縦断調査

インターネット調査会社を通じ、高校生を対象としたweb上での2波パネル調査を行った。まず2013年12月に、NHK2局と在京4局が視聴可能な34都道府県に住む15歳~18歳のモニターに1回目の調査を配信した。回答者に対し、3ヶ月後に2回目の調査を依頼した。250名のデータが分析対象となった(男性115名、女性135名。平均16.44歳、 $SD=.67$)。

調査では、テレビ視聴量、ドラマ視聴量、勤労観、職業不決断、働くことに

対する価値観、キャリア教育への取り組み、家族との仕事に関する会話量、没入感等を尋ねた。

(2) 研究2: 中学生・高校生・大学生を対象とした縦断調査

3都県の中学校7校、高等学校4校、首都圏の大学1校と短期大学1校の生徒・学生を対象に2度調査を行った。1回目調査を2014年9、10月に実施し、約3ヶ月後に2回目調査を実施した。中学生537名(男性287名、女性250名)、高校生649名(男性281名、女性368名)、大学生・短大生444名(男性208名、女性236名)のデータが分析対象となった。

調査では、テレビ視聴量、ドラマ視聴量、勤労観、職業不決断、働くことに対する価値観、キャリア教育(中学・高校生)またはキャリア形成準備(大学生)への取り組み、身近な人との進路や将来についての会話、家族との仕事に関する会話等を尋ねた。

(3) 研究3: テレビドラマの内容分析

研究1の2回目調査において、2014年1月期に関東地方で放映していた47本のドラマのタイトルを挙げ、視聴していた程度を「全く見なかった」「ときどき見た」「必ず毎回見た」の3段階で尋ねた。「ときどき見た」「必ず毎回見た」と回答した生徒の多かった26本のドラマを分析対象として選出した。また、研究2の2回目調査において、2014年10月期に放映された55本のドラマについて尋ね、同様の基準で中学生・高校生からの視聴が多かった27本のドラマを選出した。これら53本のドラマのうち、3ヶ月の放映期間に放映された回数の約半数を評定の対象とした。例えば全11回のドラマの場合、奇数回の6話分が評定対象となった。全12回のドラマの場合には、奇数回と最終回の7話分が評定対象となった。

1本のドラマは2名のコーダーが独立して評定を行った。はじめに、その回に登場するキャラクターの中から主要な5名を選出した。この作業の一致率は76.08%であった。次に、各キャラクターのもつ勤労観や働くことに対する価値観について評定した。肯定的な勤労観や価値観を持つ場合を1、否定的な勤労観や価値観を持つ場合は-1、どちらともいえないか描写がなかった場合は0として得点化した。分析においては、2名のコーダーによる評定結果の平均値を使用した。

4. 研究成果

(1) キャリア教育の影響

研究1、2のデータをもとに、学校や家庭でのキャリア教育に対する取り組みが、勤労観・職業不決断・働くことに対する価値観にどのような影響を及ぼすかを重回帰分析に

よって検討した。

まず、学校で行われるキャリア教育に積極的に取り組むことにより、高校生の勤労観が高まる傾向がみられた(研究1, $\beta = .16, p < .01$)。また、高校生の職業不決断を低める効果もみられた(研究1, $\beta = -.17, p < .01$; 研究2, $\beta = -.08, p < .01$)。これらは、いずれもキャリア教育によるポジティブな効果であるといえる。また、研究1より、キャリア教育に積極的に取り組むことは、高校生の「内面性実現」「活動志向」「ステイタス志向」「自律志向」といった価値観を高めることが示された(順に、 $\beta = .56, p < .01$; $\beta = .57, p < .01$; $\beta = .63, p < .01$; $\beta = .45, p < .01$)。

続いて、家族や友人と進路や将来について話したり、家族から仕事について教えてもらったり、仕事について話をしたりする機会を持つことによる効果を検討した。こうした機会が多いことは、勤労観を高める効果を持つことが示された(研究1, $\beta = .09, p < .05$; 研究2, 中学生, $\beta = .06, p < .10$)。また、職業不決断を低める効果を持つことが確認された(研究1, $\beta = -.16, p < .01$; 研究2, 中学生, $\beta = -.13, p < .01$; 高校生, $\beta = -.07, p < .05$)。いずれも、身近な人との会話によるポジティブな効果であるといえる。

(2) テレビ視聴やドラマ視聴の影響

研究1、2のデータをもとに、テレビ視聴やドラマ視聴が、勤労観・職業不決断・働くことに対する価値観に及ぼす影響について検討した。

研究1において、テレビ視聴が多いほど高校生の勤労観が低下する傾向がみられたものの($\beta = -.17, p < .10$)、研究2では、中学生・高校生共にそのような影響はみられなかった。また、ドラマ視聴による影響もみられなかった。さらに、研究1、2共に、テレビ視聴やドラマ視聴が職業不決断に及ぼす影響もみられなかった。

働くことに対する価値観への影響を検討したところ、テレビ視聴は中学生(男性)の働くことに対する価値観への期待を高める一方で、中学生(女性)では期待が低まることが示された。また、研究1より、ドラマ視聴が多いと高校生の「活動志向」が高まる傾向がみられた($\beta = .09, p < .10$)。また、テレビ視聴が「自律志向」に及ぼす影響は、没入感の高さによる調整効果を受けることが示された。さらに、大学生に対する調査からは、ドラマ視聴が「ステイタス志向」「内面性実現」といった価値観に及ぼす影響は、キャリア形成準備による調整効果を受けることが示された。日頃からキャリア形成に関心が高く、教育や指導を積極的に受けるなどキャリア形成の準備活動をしている学生は、ドラマの中で描かれる職業に関する価値観を自分自身に取り込み、ポジティブな影響を受ける可能性が示されたといえる。

(3) 視聴内容の影響

ここでは、テレビ視聴時間という量的な側面ではなく、視聴の内容に着目し、影響を検討した。分析に先立ち、テレビドラマの内容分析を行い、主要な登場人物のもつ勤労観や働くことに対する価値観を評定した。その上で、ドラマ単位で平均値を算出した。その後、研究2の中学生を対象とした調査データをもとに、勤労観や各価値観の視聴状況を得点化した。

実際に視聴していたドラマの内容が、勤労観や働くことに対する価値観に及ぼす影響を分析したところ、男性の場合、「他愛性」「権威(指導性)」「経済的報酬」「身体的活動」といった価値観に対する正の効果が示されたが、その影響は有意傾向に留まっていた(順に、 $\beta = .10, p < .10$; $\beta = .10, p < .10$; $\beta = .10, p < .10$; $\beta = .09, p < .10$)。この影響は、これらの価値観が肯定的に描かれたドラマを多く視聴することで、就職によってこの価値観を実現したいという期待が高まるという方向であった。また、女性の場合には、「他愛性」「権威(指導性)」「社会的評価」に対する負の効果が示された(順に、 $\beta = -.14, p < .01$; $\beta = -.10, p < .10$; $\beta = -.09, p < .10$)。これは、男性とは逆に、そうしたドラマを多く視聴することでその価値観の実現への期待が低まる方向の影響であり、性別による影響の違いがあることが確認された。

5. 主な発表論文等

[学会発表](計11件)

田島 祥・祥雲暁代・麻生奈央子・坂元 章、ドラマ視聴が中学生の働くことに対する価値観に及ぼす影響 - 内容分析と縦断調査に基づく検討 -, 日本社会心理学会第57回大会, 2016年9月, 関西学院大学(兵庫県西宮市)(発表確定)。

祥雲暁代・田島 祥・麻生奈央子・坂元 章、青少年が視聴するテレビドラマの内容分析 - 勤労観および働くことに対する価値観の描かれ方について -, 日本社会心理学会第57回大会, 2016年9月, 関西学院大学(兵庫県西宮市)(発表確定)。

麻生奈央子・田島 祥・祥雲暁代・坂元 章、テレビ視聴が職業の価値観に及ぼす影響 - キャリア形成準備の調整効果 -, 日本社会心理学会第57回大会, 2016年9月, 関西学院大学(兵庫県西宮市)(発表確定)。

Tajima, S., Shoun, A., Asoh, N., & Sakamoto, A. A two-wave panel survey on career education and television viewing. The 31st International congress of psychology, July, 2016, Yokohama, Japan.

Asoh, N., Tajima, S., Shoun, A., & Sakamoto, A. The effects of frequency of watching TV dramas on work values for future careers which were moderated by career education: A two-wave panel survey on college students.

The 31st International congress of psychology,
July, 2016, Yokohama, Japan.

Shoun, A., Tajima, S., Asoh, N., & Sakamoto,
A. The effect of viewing television on work
values: The moderating role of transportation.
The 31st International congress of psychology,
July, 2016, Yokohama, Japan.

田島 祥・麻生奈央子・祥雲暁代・坂元 章,
キャリア教育が中学生・高校生の勤労観・
職業不決断に及ぼす影響 - テレビ視聴に
よる調整効果の検討 -, 日本社会心理学会
第 56 回大会, 2015 年 11 月, 東京女子大学
(東京都杉並区)

祥雲暁代・田島 祥・麻生奈央子・坂元 章,
物語への没入感がテレビドラマ視聴へ与
える影響, 日本社会心理学会第 56 回大会,
2015 年 11 月, 東京女子大学 (東京都杉並
区)

Tajima, S., Asoh, N., Shoun, A., & Sakamoto,
A. The effects of career education and
television viewing on work values of young
people. IAEVG International Conference 2015,
Tsukuba, Japan.

田島 祥・麻生奈央子・祥雲暁代・坂元 章,
テレビ視聴が働くことに対する価値観に
及ぼす影響, 日本心理学会第 78 回大会,
2014 年 9 月, 同志社大学 (京都府京都市)

田島 祥・祥雲暁代・麻生奈央子・坂元 章,
テレビ視聴が勤労観に及ぼす影響 - キャ
リア教育による調整効果 -, 日本社会心理
学会第 55 回大会, 2014 年 7 月, 北海道大学
(北海道札幌市)

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

田島 祥 (TAJIMA, Sachi)

東海大学・チャレンジセンター・講師

研究者番号：60589480